

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年2月26日（木）

2 確認箇所

- ・淡水化装置R O 3（図1）
- ・大型廃棄物保管庫（図1）

3 確認項目

- （1）淡水化装置R O 3の状況
- （2）大型廃棄物保管庫耐震補強工事の状況

4 確認結果の概要

（1）淡水化装置R O 3の状況

淡水化装置R O 3は、原子炉注水用の淡水確保に資する施設の一つとして設置され、建屋滞留水に含まれる塩分の除去に使用している。

本日は、現在の淡水化装置R O 3の状況を確認するとともに、令和6年5月17日に漏えいが確認された淡水化装置R O 3-2の計装チューブの状況を確認した。（前回確認：[令和7年10月24日](#)）

- ・現地確認時、淡水化装置R O 3は停止しており、R O 3-2のブースターポンプ及び接続部分を含めた交換作業が実施されていた。また、当該作業に併せて関連設備の点検も実施されていた。（写真1）
- ・過去に漏えいのあったR O 3-2の計装チューブは緩衝材で保護されており、引き続き漏えい防止策がなされていた。また、淡水化装置R O 3の他類似箇所を確認、緩衝材の設置状況に問題がないことを確認した。（写真2）
- ・確認した範囲では、配管、チューブ等からの水の漏えい等の異常は確認されなかった。
- ・計画されていた建屋シート交換については、本年1月から作業を開始したとのことであり、現地確認時においては、作業（建屋カバーの前後室部分は交換せず、横型シートのみ交換）が完了していた。（写真1）

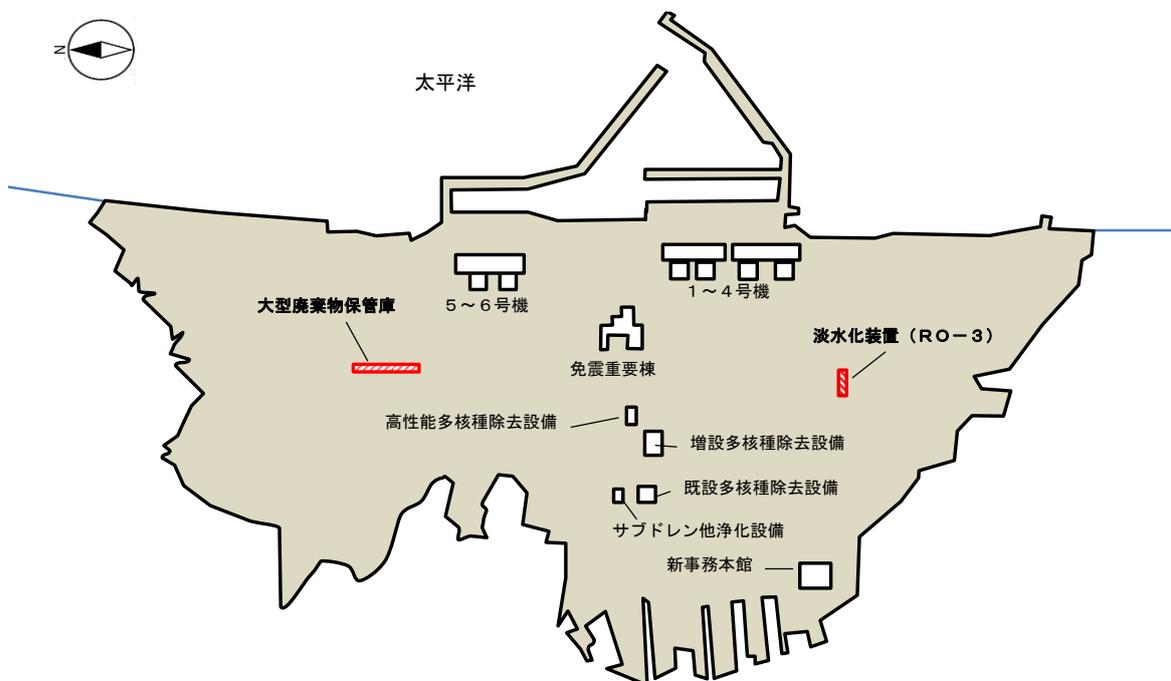
（2）大型廃棄物保管庫耐震補強工事の状況

大型廃棄物保管庫（以下「保管庫」という。）は、屋外で一時保管されている使用済セシウム吸着塔を保管するため、5/6号機北側造成地内に整備されている。保管庫については、令和5年6月に原子力規制委員会による使用前検査が完了した。しかし、令和3年2月及び令和4年3月の福島県沖地震を踏まえ、原子力規制委員会が策定した「東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所における耐震クラス分類と地震動の

適用の考え方（令和4年11月）」に基づく耐震クラスの見直しにより、建屋本体の耐震補強等が必要となり、追加工事を実施している。

今回は、保管庫の耐震補強工事の進捗状況について確認した。（前回確認：令和7年12月3日）

- ・保管庫東側における増設基礎スラブ上の建屋補強用バットレス（控え壁）の設置工事は完了していた。残る工程は、外周部に砕石を敷く外構工事が若干ある程度で、当該耐震補強工事は予定の工程どおりの進捗となっていた。（写真3）
- ・また、保管庫内の出入口近くには、扉開閉時の内部からの放射線を遮へいする遮へい体も設置されていた。（写真4）
- ・現場においては、資機材の散逸等の異常は確認されず、整理整頓が適切に実施されていた。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
淡水化装置RO3建屋外観
(建屋カバー横面は張替え済)



(写真1-2)
淡水化装置RO3建屋内部



(写真1-3)
逆浸透膜処理ユニット内の作業状況①
(RO3-2ブースターポンプ交換作業及び関連設備点検)



(写真1-4)
逆浸透膜処理ユニット内の作業状況②



(写真2)
計装盤付近における緩衝材設置状況



(写真3-1)
増設基礎スラブ上におけるバットレスの設置状況



(写真3-2)
耐震補強工事の残工程（外構のみ）



(写真3-3)
耐震補強工事現場の資材管理状況
(鉄骨等の資機材はない状況)



(写真4)
保管庫出入口部に設けられた遮へい体の設置状況（保管庫東側3か所）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。